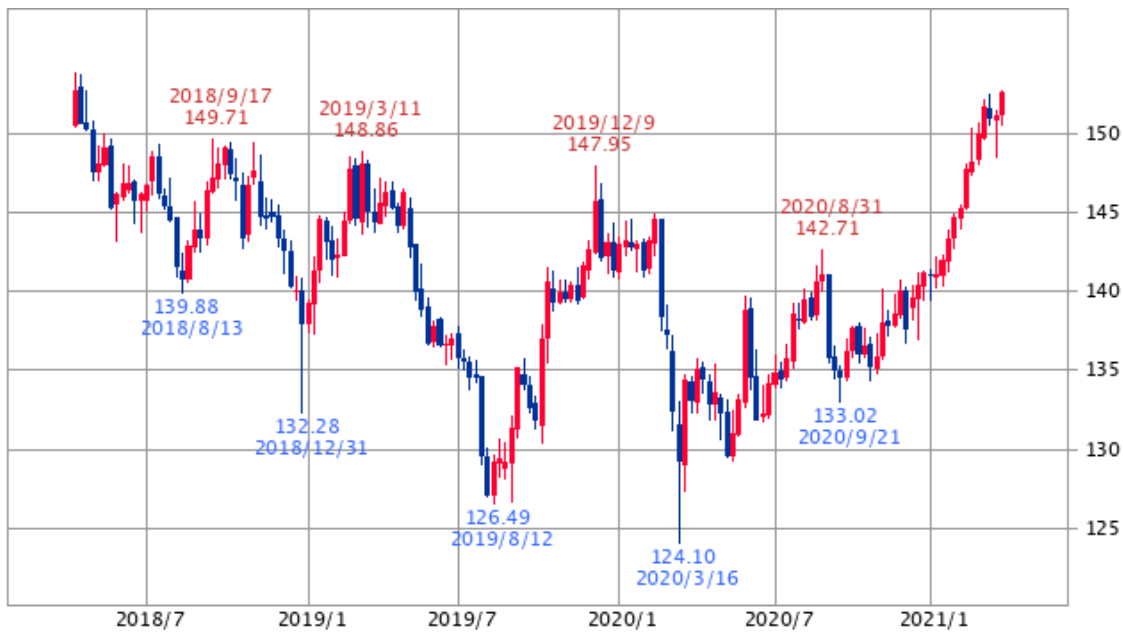


① 為替

- ⇒ 1ドル=110.75 円前後
- ⇒ 1ユーロ=129.90 円前後
- ⇒ 1ポンド=152.60 円前後と高値を更新
- ⇒ 1豪ドル=84.10 円前後
- ⇒ 米10年国債利回り 1.73%
- ⇒ 相変わらずポンドが強いですね
- ⇒ 米ドルはいくつかの大きな壁を突破したため、更に円安に向かう可能性が高いと思われます
- ⇒ ポンドも米ドルも「持たざるリスク」が続いています

【ポンド:3年】



【米ドル:6ヶ月】



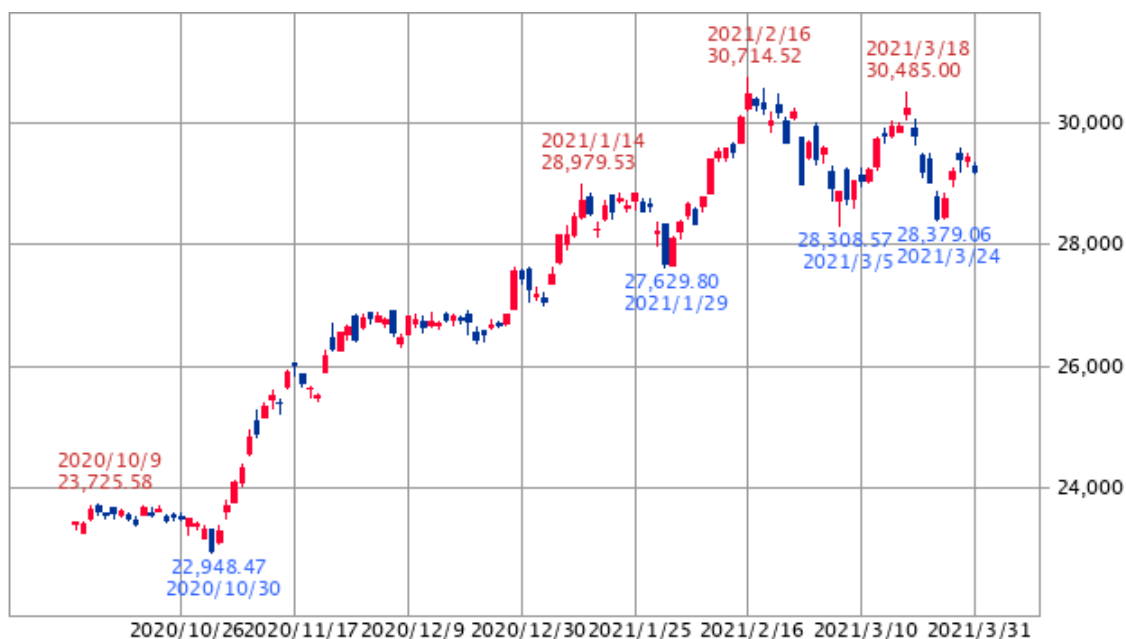
【米 10 年国債利回り:6ヶ月】



② 日経平均

- ⇒ 本日より新年度入り
- ⇒ 金融機関は「利食い売り」から通常入ります
- ⇒ まずはしっかりと利益を確保してから、新年度の方向性を決める場合が多いようです
- ⇒ 一方で、個人投資家が強気になり、信用買い残が大幅に増えている点が懸念材料です
- ⇒ また、こここのところ為替にはほとんど反応しなくなった感があります

【日経平均:6ヶ月】



③ 物価

- ⇒ 欧州連合(EU)統計局が 31 日発表した 3 月のユーロ圏の消費者物価上昇率(速報値)は前年同月比で **1.3%上昇**した
- ⇒ 世界経済の回復を見越してエネルギー価格が上昇しているため、1%超えはコロナ危機前の 2020 年 2 月以来
- ⇒ 年末には欧州中央銀行(ECB)が目指す 2%程度に達する見込みで、金利上昇圧力が高まる可能性もある
- ⇒ 国別ではドイツの物価上昇率が 2%に達した
- ⇒ 欧州でインフレ期待が高まれば、長期金利にも上昇圧力がかかりやすくなる
- ⇒ 欧州主要国の長期金利は年明け以降、経済が好調な米国に引っ張られる形でじわり上昇している
- ⇒ 物価水準が ECB の目標に近づいて緩和縮小観測が高まれば、金利上昇も加速しかねない
- ⇒ もっとも、ECB は足元の物価上昇は一時的なものともみている
- ⇒ ロックダウン(都市封鎖)が続く欧州の主要各国では需要不足が続く
- ⇒ **物価上昇率は 21 年 10~12 月に 2%に達する**が、22 年は再び 1%台前半に戻るというのが ECB の見立てだ
- ⇒ 景気回復に先行して金利だけが上昇すれば、政府や企業、家計の借り入れコストは上昇し、景気腰折れのリスクが高まる
- ⇒ ドイツ 10 年国債利回りも **-0.286%**とずいぶんと上昇してきました
- ⇒ ユーロ高の要因の一つです

【ドイツ 10 年国債利回り:3 年】

